

丸山幹治

まるやま けんぢ

新聞記者。

明治十二年五月、二十四長野縣生れ、昭和二

十年八月十六日没（六十八―一九五）。號乾堂、侃堂、黑頭巾。東京專門
學校卒。新聞『日本』記者を経て、『大阪朝日新聞』記者。大正二年ア
メリカ派遣、翌年イギリスに移り六年歸國。翌年米騒動を経て筆禍事
件で長谷川如是閑等と共に浪社。十年『讀賣新聞』經濟部長、十二年
『中外商業新報』經濟部長、十四年『京城日報』主筆に轉じ、昭和二
年『大阪毎日新聞』論說委員となる。爾來、二十八年までコラム「硯滴」
（『東京日日新聞』）と「餘録」（『執筆』）を執筆。長男は音楽評論家丸山鐵
雄、次男は政治學者丸山眞男。まるやま けんぢ

著書、『副島種臣傳』（昭和十一年一月）、『大正日日社』（『余録』二十
五年）（昭和二十九年八月）、『十五年毎日新聞社』（等）。